

科目名	調査分析特講	担当者	タナカ 田中 ケンイチロウ 堅 一郎	期間	通年	単位数	4
-----	--------	-----	-----------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本講義の目的は、修士論文作成の過程で必要になるとと思われる具体的な調査方法と、データの分析方法について学習することである。</p> <p>前期では、調査の種類を学び、その中でも質問紙法（アンケート調査）と面接調査（ヒアリング調査）について学習する。後期では、調査分析に必要な統計手法について学習する。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期では、最終的には、自分で質問紙（調査票）を試作するか、面接調査（ヒアリング調査）を計画できるようにする。</li> <li>・後期では、実際にサンプルデータを分析できるようにし、データの分析結果を統計学的な視点で読み取ることができるようにする。</li> </ul>		
学修方法	<p>レポート課題に沿って、テキストや参考図書を基に、自分自身で各々の課題における題材を取り上げ、その題材に対して、必要な文献の検索を行い、それに対する考え方をレポートとしてまとめる。レポート作成の際の注意点や留意点については、manaba folioのスレッドに掲示する。</p> <p>なお、基本教材2の課題2では、当大学院で希望者に貸与される統計解析用のソフトウェアを駆使して実際に分析を行う。</p>		
スケジュール	<p>前期：教材1のレポート課題1の草稿は7月末、課題2は8月末を目処に提出できるように学習をすすめる。いずれの課題も9月中旬までに最終稿を提出する。</p> <p>後期：教材2のレポート課題1の草稿は11月中旬、課題2は12月中旬を目処に提出できるように学習を進める。いずれの課題も2018年1月中旬までに最終稿を提出する。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	79%	最終提出期限内に提出されなかったりレポート課題は、(原則的に)0点となります。
	平常評価	21%	最終提出までにレポートの草稿の送信・返信を行ったかどうかで評価します。草稿を一度も出さずにいきなり最終稿を出された場合、そのレポート課題の評価点は79点以下しか得られません。
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート作成にあたって文献を引用した場合は、それらすべてをレポートの巻末に示してください。その際、本文に引用した文献（引用文献）と、本文には引用しなかったがレポート作成に際して参考にした文献（参考文献）とは仕分けて示してください。</li> <li>・要覧にもあるように、後期課題のレポートでは、意味ある情報を的確に、かつ少数の値に集約して表現し、それらの値を効率よく記述しわかりやすく示すこと。表や図をレポートに提示する場合は、必ず通し番号とその表題をつけること。</li> </ul>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	(1)著者名： 鈴木淳子 教材名： 『質問紙デザインの技法（第2版）』（ナカニシヤ出版，2016年） ISBN:978-4-7795-1075-5 2,800円+税
	(2)著者名： 鈴木淳子 教材名： 『調査的面接の技法（第2版）』（ナカニシヤ出版，2005年） ISBN:978-4-88-848960-7 2,500円+税
	第1図書は、主として心理学で用いられる調査法の概要とその手法について解説したものである。 第2図書は、研究方法としての面接・インタビューの概要とその手順について詳細に解説したものである。
参考図書	小塩真司・西口利文（編）『心理学基礎演習 Vol. 2 質問紙調査の手順』（ナカニシヤ出版，2007年）ISBN:978-4-77-950200-2 2,200円+税 鎌原雅彦他（編著）『心理学マニュアル 質問紙法』（北大路書房，1998年）ISBN:978-4-76-282109-7 1,500円+税 保坂亨他（編著）『心理学マニュアル 面接法』（北大路書房，2000年）ISBN:978-4-76-282170-7 1,500円+税
履修上のポイント	課題の目的における「2. 質問紙（アンケート調査）を行う手順」と「3. 質問紙（調査票）を作成する際に留意すべきことがら」は、教材の『質問紙デザインの技法』を、「4. 面接調査（ヒアリング調査）を行う手順」と「5. 面接調査（ヒアリング調査）を行う際に留意すべきことがら」は、教材の『調査的面接の技法（第2版）』が参考になる。
レポート課題 1	以下に示す項目について、教材と参考図書などを参照しながら説明せよ。 ①質問紙法（アンケート調査）を計画し実施するまでの手順 ②質問紙法（アンケート調査）の実施方法の違いによる区分と、それらの長所と短所 ③面接調査（ヒアリング調査）を実施するまでの手順 ④面接調査（ヒアリング調査）の形式による区分と、それらの長所と短所 <b>留意点</b> ：各項目あたり2,000字以内を目安に説明すること。
レポート課題 2	以下の2項目のうち、一つを選ぶこと： ①任意のテーマ（できたら自分の研究課題に近いもの）について、調査内容をまとめ、実際に質問紙（アンケート）を作成する。 ②任意のテーマ（できたら自分の研究課題に近いもの）について、調査内容をまとめ、ヒアリング調査計画書と調査に必要な書類を作成する。 <b>留意点</b> ：教材と参考書をよく読んで作成すること。できたら、調査後に分析がしやすいように配慮する。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 南風原朝和 教材名： 『心理統計学の基礎』（有斐閣アルマ，2002年） ISBN:978-4-64-112160-7 2,200円+税
	この教材は、統計的手法について詳細に解説したものである。
参考図書	村井潤一郎・柏木恵子『ウォームアップ心理統計』（東京大学出版会，2008年） ISBN:978-4-13-012046-3 2,000円+税 松尾太加志・中村知靖『誰も教えてくれなかった因子分析 数式が絶対に出てこない因子分析入門』（北大路書房，2002年）ISBN:978-4-76-282251-3 2,500円+税 繁樹算男・森 敏昭・柳井晴夫『Q & Aで知る統計データ解析 Dos and DON'Ts』（サイエンス社，2008年）ISBN:978-4-78-191186-1 2,450円+税
履修上のポイント	教材を読んでも分からない、統計学の知識そのものがわからない場合は、参考図書の『ウォームアップ心理統計』（東京大学出版会）を参照すること。
レポート課題 1	以下に示す用語について、教材と参考図書などを参照しながら説明せよ。 ①偏相関 ②決定係数 ③標準偏回帰係数 ④因子負荷量 ⑤多重共線性 <b>留意点</b> ：各用語あたり800字以内を目安に、3,000～4,800字の範囲で説明すること。説明には数式を用いてよい。ただし、その際に用いた記号について脚注をいれること。
レポート課題 2	与えられたデータをもとに、統計解析ソフト（Excel 統計 2015, (株)社会情報サービス）を用いて以下に指定された分析を行い、その結果を要約すること。 ①すべての変数について度数分布、代表値、散布度を示す。 ②任意に2変数を選び相関図を描き、その相関図について相関係数を算出する。 ③3つ以上の変数を選び、重回帰分析法を実施する。 ④5つ以上の変数を選び、因子分析法を実施する。 <b>留意点</b> ：分析用のデータは「調査分析特講」受講者が確定した後に大学院専用サイト（manaba folio）に添付する。統計解析ソフトの出力結果をそのままレポートにペースト・コピーして提出しないこと（ただし、掲載する図表をExcelで作成するのはかまわない）。